

錦ヶ浦 視察報告書

(静岡県熱海市)

1 現場付近の状況

- ・太平洋に面した風光明媚な断崖絶壁の景勝地で国道 135 号線沿い。
- ・遊歩道、散策に整備した断崖(海拔約 50メートル)で最も飛び込みが多いと思われる展望台には観音様が祀っており、石碑には数十年以上前から飛び降りが多くあった事を窺わせる文脈がある。
- ・展望台、曾ヶ浦大橋共に危険と思われる個所には約 2, 5メートルの柵(金属製)が設置されており、よじ登って飛び降りるのは困難。
- ・自殺防止の活動をする団体、個人は存在しない様子。

2 自殺防止対策

- ・遊歩道、展望台は金属製の柵(約 1, 5メートル)があり、危険と思われる所は更に約 1メートルの先端が尖ったデザインの柵を追加してある。(取付け時期は不明)
- ・曾ヶ浦大橋の柵は内側斜めに 0, 5メートルほどの折り返しがあり、乗り越えるのは困難である。
- ・曾ヶ浦大橋手前の展望台は金属製の柵で閉鎖してあり立ち入り不可。

3 自治体の担当者談

- ・現在の錦ヶ浦地区は自殺者がほとんど無く自殺多発場所と認識していない。自殺防止のための民間ボランティアも無いと思うとの事。

4 考察

- ・かつては、自殺多発場所として言われていた錦ヶ浦地区は現在自殺が減少しており地域の関心は低下しているようだが、地元観光事業の対策が、相当な効果を上げていると思われる。
- ・伊豆半島全体が観光地で断崖絶壁が多数在り、飛び込む場所は点在していると思われる。(近隣の城ヶ崎海岸、下田、西伊豆等)海を望む景色のよい断崖絶壁に行政、地元など恒常的な関心維持、警戒、保護体制の整備が望ましいと考える。